

発生農場に係る疫学調査チームの調査結果概要
(平成23年1月23日)

本日実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

第1例目について

- ① 死亡鶏は農場の入口に近い鶏舎で発見され、人及び物の出入りが多い場所であった。
- ② 従業員に最近の海外の渡航歴はなく、また、野鳥の飛来地を訪れたこともなかった。
- ③ 鶏舎ごとに踏み込み消毒槽を設置しており（消毒液は毎日交換）、鶏舎内と鶏舎外の2足の長靴を区分して使用していた。
- ④ 鶏への飲用水は、山のわき水を利用（未消毒）。
- ⑤ 防鳥ネットは比較的しっかり張られていたが、数カ所隙間・穴を確認。従業員によると、野鳥を鶏舎内で見たことはないが、ねずみは鶏舎内で確認されており、対策として鶏舎内で猫を飼養。
- ⑥ 発生農場の周辺について
農場は国道沿いの平地で、周囲は、雑木林、牧草地とらっきょう畑。従業員によると、周辺でカラス、ハト、スズメについては、良く見かけたが、カモ類は見かけなかった。

第2例目について

- ① 鶏舎への出入りは、靴の履き換え・作業着の交換はしておらず、靴底消毒のみ。
- ② 死亡鶏の収集は、1例目の発生農場の死亡鶏も扱っている業者。
- ③ 死亡鶏は、各農場が所有する車輛により団地入口の各農場共有の死亡鶏置き場まで搬出するため、搬出車両及び従業員の動線は交差。
- ④ 消毒薬等の資材置き場である倉庫は、各農場で共有。